



Anubis Venue Mission Appendix

2023.NOV.29

Contents

Merging License Manager – Enabling the Venue Mission.....	3
VENUE MISSION LAUNCH.....	5
VENUE MISSIONについて.....	6
OVERVIEW.....	6
Venue Mission の使用例.....	6
ハードウェア ハイライト.....	7
ソフトウェア ハイライト.....	7
MISSION UI と NAVIGATION.....	7
I/O Latency Specifications.....	8
VENUE MISSION USER INTERFACE.....	9
OPERERATION MODES.....	11
Personal Monitoring Mode.....	11
Personal Mix Mode.....	13
SIGNAL FLOW.....	15
EFFECTS.....	16
MERGING+EQ.....	16
MERGING+DYNAMICS.....	19
MERGING+REVERB.....	22
SETTINGS CATEGORIES DESCRIPTION.....	24
GENERAL SETTINGS.....	24
MODE.....	28
PERSONAL MIXER / MONITOR.....	29
I/O SETTINGS.....	36
ACCESS CONTROL Settings.....	40
INFO Settings.....	42
DEBUG Settings.....	42
EXIT Settings.....	43
How to Open the Remote Web User Interface.....	44
Identify Me - Device Location.....	45



Merging License Manager – Enabling the Venue Mission

一部の製品 (Mission または機能) は、ライセンス アクティベーション キーが必要です。これは **Anubis Venue Mission** にも当てはまります。試用版アクティベーション キーを入手するには、Merging の ローカル セールス パートナーにお問い合わせください。キー コードを受け取ったら、**Merging License Manager** から Anubis に入力してください。

詳しくは [こちら](#) をお読みください。

MLM で プロダクト ライセンスを加える方法

必要なもの:

MERGING+ANUBIS が RAVENNA/AES67 でシステム (mac または PC) に接続されていること

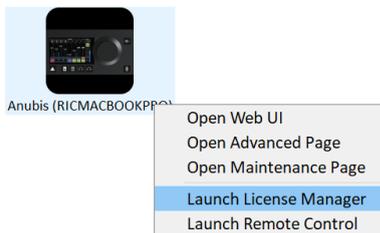
プロダクト ライセンス キー コード

少なくとも1つ以上の最新の Merging アプリケーション (MAD, VAD, ANEMAN, MTDDiscovery)

最新の Anubis Firmware バージョン

手順:

1. Anubis を システムに接続してください。
2. MAD, VAD, ANEMAN, MTDDiscovery のいずれかを起動してください。
3. 表示されている Anubis アイコンを右クリックし **“Launch License Manager”** を選択してください。



4. これにより Merging License Manager が開き、使用したい製品の アクティベーション キーを入れることができます。

この例では *Venue Mission* をアクティベートします。

Venue Mission

Enter your activation key:

No license has been found on the system

5. 受け取ったキー コードを入力します。これは AXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-X の様なコードです。

入力したら **Activate** をクリックしてください。

6. これにより Venue Mission がアクティベートされ 特定の Anubis で動作するようになります。



Venue Mission

Registered To: [REDACTED]
Activation Key: [REDACTED]
Device Id: A650101
Device Key: [REDACTED]

License is valid

[Release License](#)

注意: アクティベーション キーは 同時に一台の *Anubis* 上でしか動作しません。別の *Anubis* で動作させるには、まず [Release License](#) をクリックして アクティベーションを無効にしなければなりません。

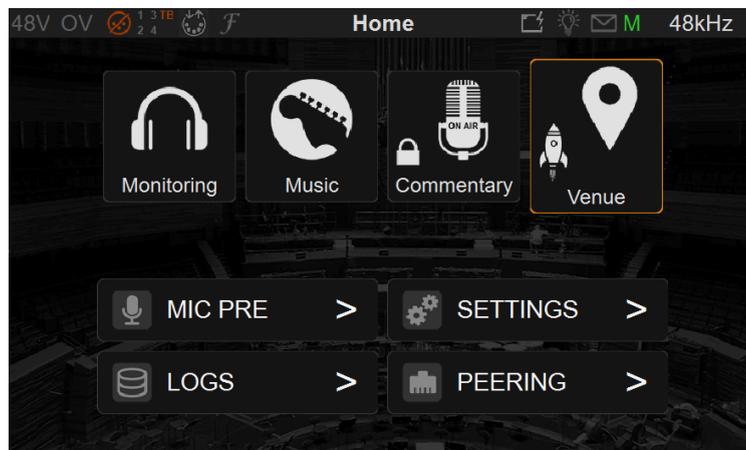


VENUE MISSION LAUNCH

Venue Mission を起動するには、まず Anubis の Home ページにアクセスしてください。
Home ページは Anubis の Home ボタンを長押しするとアクセスできます。
Home ページは パスワードでアクセスできないようにロックすることもできます。



Home ページで Venue Mission を選択します。



Venue Mission のアイコンが表示されない場合は、Anubis Firmware が 1.5.2以上であることを確認してください。また、Venue Mission のライセンスを持っていることも確認してください。

Venue Mission を選択後に起動が完了すると Main ページが表示され、操作ができるようになるはずです。





VENUE MISSIONについて

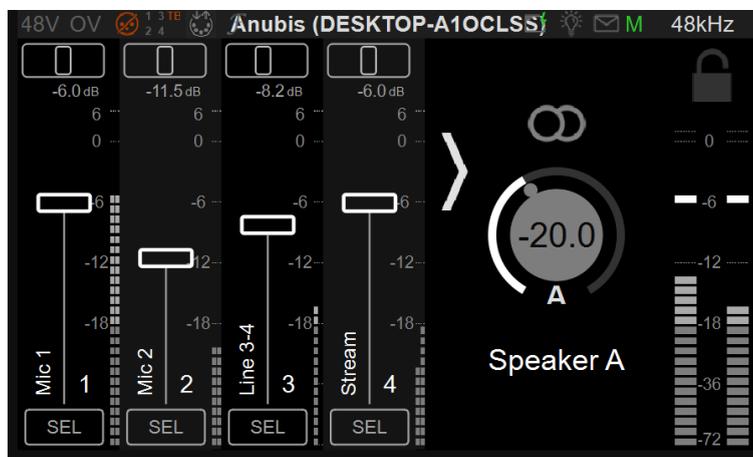
マルチシートのパーソナルミックスからライブパフォーマンスまで。Venue Mission は複数のパフォーマーが参加するライブコンサート、高品質のステージプリアンプ、または個人的なミックスやプリアンプが必要なレコーディングスタジオで使用できます。

OVERVIEW

Venue Mission では、ミュージシャンの個人用ミキサーとして使用できます。オプションのEQ、ダイナミクス、リバーブが使用できます。

ミキサーのコントロールとモニタリング機能は、ローカルの ANUBIS ユニットのタッチ インターフェイスで操作できますが、同時にリモート Web インターフェイスやリモート アプリケーションからも操作することができます。

ユーザー インターフェイスは、演奏者が必要とするチャンネルを表示するようにカスタマイズできるため、演奏者は自分のミックスとモニタリングを操作しながらパフォーマンスに集中できます。



Venue Mission の使用例

- シンフォニックオーケストラのライブパフォーマンス
- バンドの複雑なモニターセットアップ
- モニターエンジニアのいない小編成バンド
- オーケストラのスタジオ録音
- スピーカーブース・ADRスタジオ





ハードウェア ハイライト

最小限の配線

- PoE+ による電源供給
- 簡単な導入
- 2マイクに1つのネットワークケーブル
- 4系統のステレオモニター
- ビルトインTalkbackマイク

短いアナログ回線

- スキンエフェクトの低減
- インピーダンスの問題
- 最小限の電磁障害

音質

- 入力P reAmp は 139 dBA のダイナミックレンジ
- HiFiヘッドフォンとDAC品質
- 32bit オーディオ(デジタルゲインによる)

堅牢性と快適性

- アルミの一体成型ボックス
- 調光可能なLEDとTFT
- Ethercon/マイクスタンドへの取付

ソフトウェア ハイライト

パーソナル モニター ミックス

- 16チャンネル Stereo/Mono ミキシング, パンニング, バランス
- サンプルレートに関らず 16 mono または stereo 入力
- ローカルのアナログ入力 か AoIPのストリームを入力として使用可能
- ボリュームコントロールとmono機能
- Input に Solo, Mute, パラメトリックEQ, ダイナミクス プロセッシングを使用可
- 個別のセンドレベルを装備したリバーブ
- 直感的なUIとカスタムネーミングと色分けが可能
- セットアップ ロック(パスワード)と様々なロック機能
- mono input には Panコントロール stereo input には Balanceコントロール
- Input に付加できるディレイ(1.4ms から 20ms まで)

リモートコントロール

- Webアクセス
- リモートアプリ(Win/macOS)
- 複数の Anubis でのアクションを可能にする設定および監視ツール

相互運用性

- スタンドアロンでありながら、あらゆるミキシング コンソールや DAW と相互運用可能
- モニターチェックとRFブロードキャストのためのループバックモニターストリーム
- AoIP ストリームを通じてモニターをリッスンバックする機能

MISSION UI と NAVIGATION

- 操作したいものを タッチ/プッシュ/回す
 - Fader





- Paner
- Gain
- Volume
- 長押しで Home/Settings ページにアクセス
- スクリーン ロック
 - 特定のページをパスワード付きのロックすることが可能
 - ステータス表示をロック
- Anubis のボタン A, B, 1, 2 を押すと ミキサーページにアクセス
- Talk button がラッチモードに変化
- どのモニターでも Mute 可能

I/O Latency Specifications

AD, DA 処理 によってもたらされる遅延と、AES67/RAVENNA ネットワークによってもたらされる遅延

Anubis Max latency in milisecond (AD to DA)

	44.1	48	96	192	kHz
Personal Monitor	0.11 0.09 0.20 0.41	0.10 0.08 0.19 0.38	0.05 0.04 0.09 0.19	0.03 0.02 0.05 0.10	AD Proc DA** ms
Personal Mixer	0.11 0.50 0.20 0.82	0.10 0.46 0.19 0.75	0.05 0.23 0.09 0.38	0.03 0.11 0.05 0.19	AD Proc DA** ms max*

* latency max when all input and output processing are activated

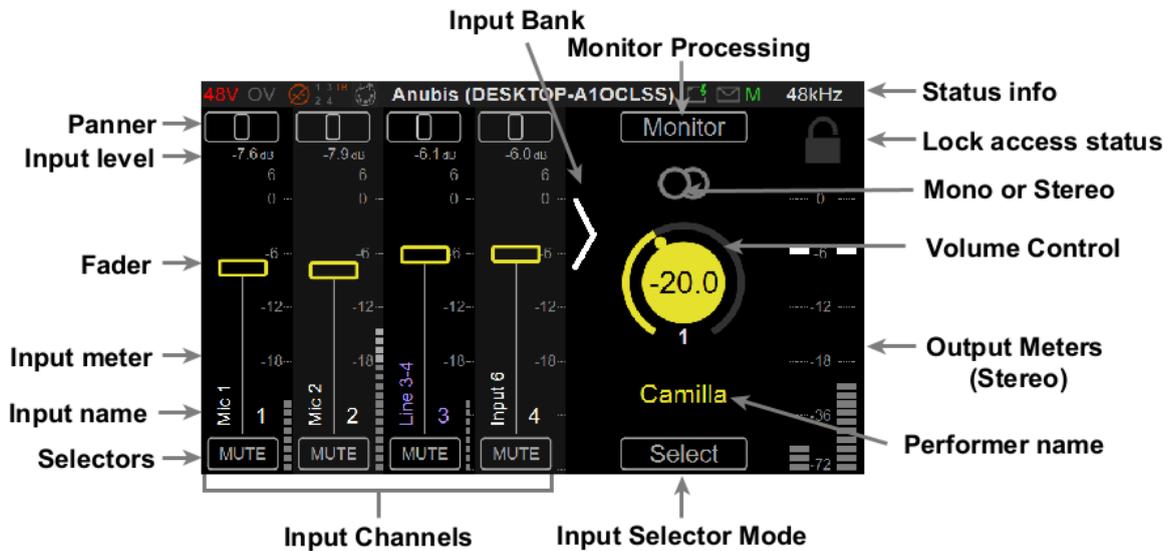
** Roll off filter set to slow (default)

AES67 network latency in milisecond

	44.1	48	96	192	kHz
AES67 48 smpl	1.09	1.00	1.00	1.00	ms
AES67 12 smpl	0.27	0.25	0.25	0.25	ms
AES67 6 smpl	0.14	0.13	0.13	0.13	ms



VENUE MISSION USER INTERFACE



Panner

各インプットソースにはミックスのバランスをとるためにパンナーが装備されています。パンナーを選んでロータリーエンコーダーを回してください。

Fader Level (dB)

現在の値が表示されます。レンジは $-\infty$, -40dB から +6dB

Faders

フェーダーを使用して入力チャンネルのレベルを調整します。指でフェーダー領域を選択し、フェーダーを上下に移動させ、希望のレベルで指を放します。あるいは、フェーダーを選択し、ロータリーボタンノブを使用します。デフォルトのフェーダー値は公称 0dB ですが、フェーダーの最大値は +6dB です。

Input Peak Meter

チャンネルの入力レベルを表示します。dBFS のスケールで、最大 +6dBFS まで表示します。0dBFS はデジタルクリッピングに相当します。クリッピングを避けるためにレベルを調整してください。

Input names

チャンネルソース名です。名前と色の指定は、Settings > Inputs で設定できます。

Slector

Solo: 信号をソロにするには、Solo ボタンをタップします。これによりチャンネル信号がモニター出力に直接ルーティングされ(詳細については出カルーティングを参照)、以前に試聴されていた信号がオーバーライドされます。

Select/Solo: ソロの場合、選択メニューはソロクリアボタンになります。

Mute: Mute ボタンをタップすると入力信号はミュートします。チャンネル信号のモニター出力へのルーティングが解除されます。

EQ: EQボタンをタップするとパラメトリックEQ表示にアクセスできます。EQがONになるとボタンが点灯します。

Dyn: Dynボタンをタップするとダイナミクス表示にアクセスできます。ダイナミクスがONになるとボタンが点灯します。

Reverb: Revボタンをタップするとリバーブにアクセスできます。入力にリバーブを使用している場合はボタンが点灯します。リバーブは全てのモニターで共有されます。





Input Channels

チャンネル入力ソースは、まず Settings > Inputs で設定します。入力チャンネルソースを作成して有効にすると、Mixer ビューに表示されます。

注: 入力チャンネルソースに信号が届くようにパッチを適用する必要があります。

Select channel mode

押すと input selector の機能を選択するメニューがポップアップします。これらは、**Mute-Solo-Param EQ-Dynamics-Reverb**です。Settings > Monitor で選択したオプションによっては、メニュー項目が非表示になる場合があります。このメニューは Personal Monitor モードでは利用できません。

Input bank switch

スクロール ボタンをタップすると、ミキサーの追加の入力チャンネル ストリップに移動します。

注: スクロール ボタンは、追加のチャンネルがスクロールできる場合にのみ表示されます。

Performer name

Settings > Monitor でパフォーマーの名前をカスタマイズできます。

Volume Control

演奏者のモニタリング音量レベルのコントロールを選択し、Anubis ロータリーエンコーダーを回して操作します。2 秒間何も操作しないと、画面上のノブの選択が自動的に解除されます。

ボリュームは Settings > Monitors の中の モニターセット (例: Headphone 1) の中の Volume Locked オプションでロックすることもできます。

Monitoring Mode (Stereo or Mono)

モニタリングをステレオ モードにするか モノラル モードにするかを選択します。

重なっている円はステレオ モードを示し、単一の円はモノラルを示します。

Monitor processing

押すと、モニター プロセッシング ウィンドウにアクセスできるメニューがポップアップします。これらは、Param EQ (12 bands) - Dynamics です。Settings > Monitor で選択したオプションによっては、メニュー項目が非表示になる場合があります。このメニューは Personal Monitor モードでは利用できません。

Output Meters

パフォーマーモニターにはステレオ出力メーターが利用できます。クリックするとピークがリセットされます。

Access lock status

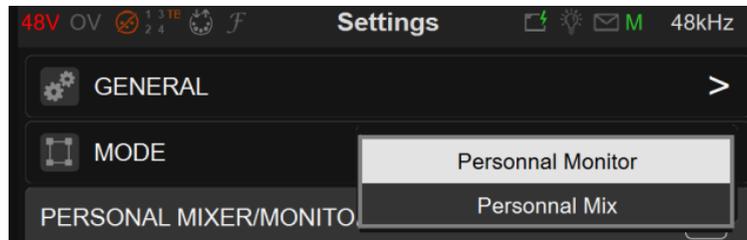
ロックには、開いている状態と閉まっている状態の 2 つの状態があります。閉まっている場合、Access Control で設定したページにはパスワードを必要とするアクセス制限があることを意味します。開いたらクリックして、Access Control で設定している全ての制限を有効にできます。



OPERATION MODES

Venus Mission は 2 つの異なるモードで操作できます。**Personal Monitoring Mode** とプロセッサ付きの **Personal Mixer Mode** です。

動作モードは、**Settings > Mode** で選択できます。



Note: *Personal Mix* から *Personal Monitor* に切り替えると、*Eq*, *Dyn*, *Rev* は無効になりますが、パラメーターは保存されたままになります。

Personal Monitoring Mode



シンプルなモニターから複雑なマルチシートのモニターまで。

ミュージシャンの視点から

これは、アーティストのパフォーマンスを妨げることなく基本的なモニタリング機能を提供するため、ミュージシャンの観点にとって理想的なモードです。

Features

- 2つの独立したヘッドフォン回路
- 32 inputs / stream をミックス可能
- 各モニターで Volume, mute, mono
- モニターソースは AoIP または 物理 (Mic/Line/Instrument) 入力

このモードは、音楽を聴く必要があるミュージシャン向けの迅速なモニター展開ソリューションです。ミックス (モニターコンソールによって提供) し、独自のボリュームを持っています。このモードでは、ミュージシャンはヘッドフォンを接続して音量を調整するだけで済みます。



技術者の視点から

最高品質のプリアンプを使用でき、パーソナルなミックスをあらゆるパフォーマーに配信できます。

Features

- 複数の Anubis を簡単に管理
- 妥協することなくオーディオをキャプチャ
- すべての mic/line/instrument プリアンプをリモートコントロール可能
- Anubis を使用している人にネットワーク経由でミックスをデプロイします
- パラメトリック EQ、ダイナミクス、リバーブは使用可能ですが、ミュージシャンからはアクセスできません。

短いケーブルで簡単にセットアップできます。高品質の PreAmp。モニターとリモートコントロール。

Personal Monitoring Mode Operations

Monitoring and Volume control

物理ボタンで音量コントロールを選択し、Anubis エンコーダーを押して回して音量を調整します。

2 秒間何も操作しないと、画面上のノブの選択が自動的に解除されます。

ボリュームは *Settings > Monitors* の中の モニターセット (例: *Headphone 1*) の中の *Volume Locked* オプションでロックすることもできます。

Mixer Balance

Mixer ユーザーインターフェースでチャンネル フェーダーのバランスを調整してミックスを設定します。

Mixer Customization

パフォーマーの希望やニーズに合わせてミキサーをカスタマイズし、チャンネルを非表示にしたり、移動したり、名前を付けたり、色を付けたりすることができます。

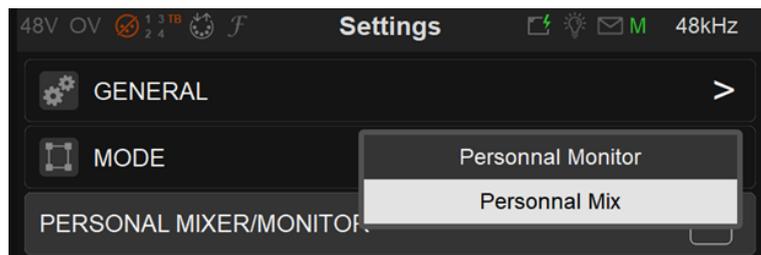
Renaming & color code

パフォーマーの名前とカラーリングコードは、*Settings > Monitor* のモニターセットの中で行うことができます。





Personal Mix Mode



バランスコントロール、エフェクトのリアルタイム処理、各パフォーマーのモニターを備えたパーソナルミックスを提供します。

Features

- 4系統のモニターに16チャンネルの独立したミキサー
- 全てのサンプリングレートで 16 mono/stereo インプット
- input には ローカルのアナログ入力か AoIP ストリームを使用可能
- 各モニターでミキサーインプットを表示/非表示
- mono input には pan, stereo input には balance を搭載
- input の名前/色をカスタマイズ可能
- input に遅延を加えることが可能 (1.4ms~20ms)
- 全ての input にピークメーター付き
- モニターを AoIP でリッスンバック可能
- Strip には エフェクトが使用可能
- 全ての input の Solo と Mute が可能
- モニターにエフェクトを加えることが可能

Personal Monitoring Mode Operations

Monitoring and Volume control

物理ボタンで音量コントロールを選択し、Anubis エンコーダーを押して回して音量を調整します。

2 秒間何も操作しないと、画面上のノブの選択が自動的に解除されます。

ボリュームは *Settings > Monitors* の中の モニターセット (例: *Headphone 1*) の中の *Volume Locked* オプションでロックすることもできます。





Mixer Balance

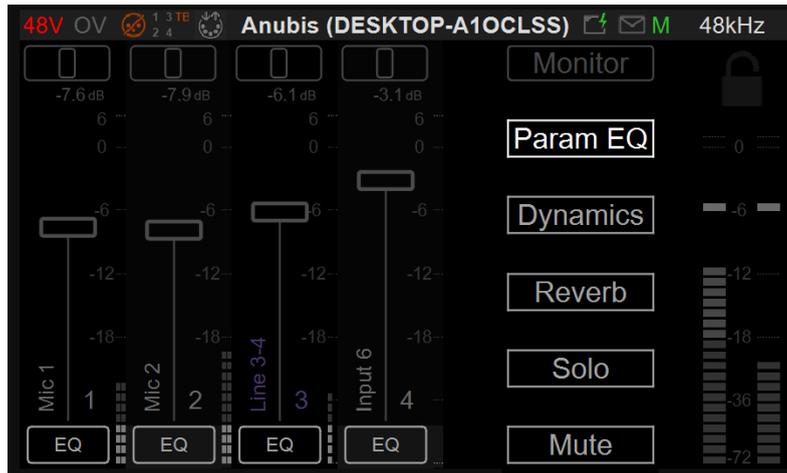
Mixer ユーザーインターフェースでチャンネル フェーダーのバランスを調整してミックスを設定します。

Mixer Customization

パフォーマーの希望やニーズに合わせてミキサーをカスタマイズし、チャンネルを非表示にしたり、移動したり、名前を付けたり、色を付けたりすることができます。

Renaming & color code

パフォーマーの名前とカラーリングコードは、Settings > Monitor のモニターセットの中で行うことができます。



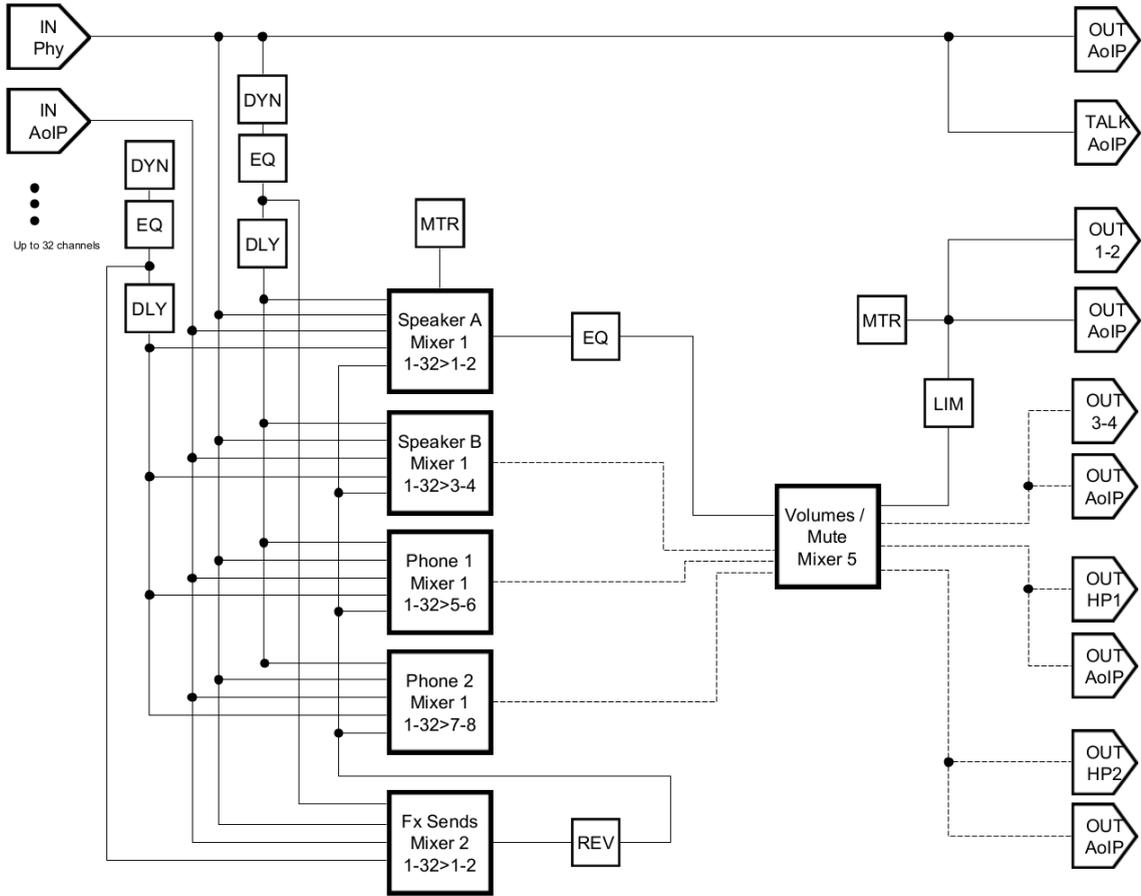
Personal Mix mode のみで使用可能

Renaming & color code

パフォーマーの名前とカラーリングコードは、Settings > Monitor のモニターセットの中で行うことができます。



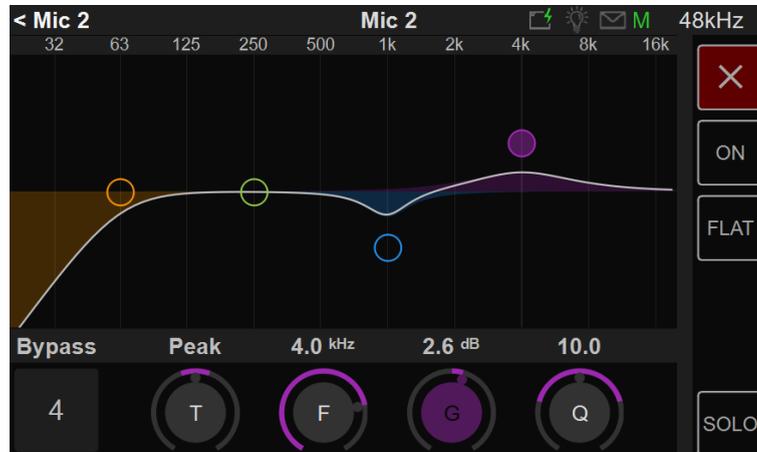
SIGNAL FLOW





EFFECTS

MERGING+EQ



Anubis EQ は、広く高く評価されている Pyramix EQ-X の品質を元に構築されており、最大 DXD のサンプリング周波数で非常に精細なフィルタリングを提供します。

EQ は、各バンドのフィルター タイプ、ゲインのブーストとカット、周波数、Q ファクター（帯域幅）を独立して制御できるフルパラメトリック EQ の 4 つのバンドとなっています。ノッチ、ローカット、ハイカット、ピーク、シェルビングフィルタータイプが利用可能です。この究極の解像度のイコライザーのフィルター設計は、最高のオーディオ解像度に対応できるように最適化されており、同時に非常に低いノイズと歪みを実現し、可聴域全体（および非可聴域でも）で -110dB を超える THD+N を実現します。もちろん、この新しいデジタル フィルターのトポグラフィは、高いサンプル レートを念頭に置いて設計されていると同時に、1FS イコライゼーションでも低ノイズを提供しています。

EQ は、任意の入力（ローカルまたは Peered）または任意のモニター出力（ヘッドフォンなど）に適用できます。EQ リソースは蓄積されず、共有されます。これにより、入力または出力ごとに複雑なイコライゼーションが可能になり、入力では 4 バンドで合計 32 EQ、モニター出力では 12 バンドで 4 EQ が Venue Mission の任意のサンプリング レートで利用可能です。

ANUBIS EQ FEATURES

- 全ての Anubis ユーザーは EQ を使用できます。
- EQ は 44.1kHz から 352.8kHz (DXD), 384kHz をサポートしています。

ANUBIS EQ PARAMETER CONTROLS



Operation:

ダイナミクスを利用できるように Personal Mix Mode になっていることを確認し、Select Menu で EQ を選択します。これで各ストリップチャンネルから EQ にアクセスできます。

パラメータを選択し、Anubis ロータリーを使用して変更します。EQ はモニター出力でも使用できます。Monitor ボタンを選択してアクセスします。

EQ バンドの選択: 調整したい周波数バンドの UI、周波数バンドをタップし、パラメーターを調整します。

Bypass



2

Band Channel Number: 周波数帯域が選択されているとき、Bypass をタップすると、その特定の周波数のみがバイパスされます。(例: Band 2)
デフォルト: Disable



Filter Type

全てのEQで5つのフィルタータイプが選択できます。

Types:

- Low Cut (Lo Cut - high pass filter): 6 dB per octave
- Low shelving (Lo Shelf)
- Peak (Parametric)
- High shelving (Hi Shelf)
- High Cut (Hi Cut): 6 dB per octave low pass filter

Note: 24dB/Oct は、2つのバンドが必要です。

デフォルト: Peak



Band Frequency (4 まで)

バンドの中心周波数を調整します。

単位: Hz または kHz

20Hz / 20kHz 最初の5つのバンドのデフォルト値: 31Hz / 125Hz / 500Hz / 2kHz / 8kHz

Step: 24 steps/oct



Gain

選択した帯域のゲインを dB 単位で -24 dB から +24 dB の間で設定します。この設定は、Peak および Shelving filter にのみ使用されます。

Note: Gain ボタンを長押しすると、周波数帯域が 0dB にリセットされます。デフォルト値: 0 dB ステップ: 0.1 dB



Band Q-Factor (7)

パラメトリックフィルター が使用されている場合、帯域上のゲインと周波数の影響を受ける周波数範囲を調整します。Q はピークフィルター タイプでのみ使用できます。

Q ファクターが低いとより広い範囲の周波数が影響を受け、Q ファクターが高いとより狭い範囲の周波数が影響を受けます。

値の範囲: 1 ~ 100

デフォルト: 10

Step: 24 ステップで対数分布します。

EQ Control Column

X

EQのUIを閉じます。

ON-OFF



Close EQ

Enable EQ

Reset EQ





EQルーティングを アクティブ または 非アクティブにします。

Flat EQ

EQ をフラットにリセットします。

Solo

EQ チャンネルを Solo にします。



MERGING+DYNAMICS



Anubis の Dynamics はマルチモジュールです。1 X Gate、1 X Compressor、1 X Limiter を直列に組み合わせることができ、各モジュールには独自のパラメータがあります。

出力バスまたはストリップチャンネルでリミッターを使用し、ストリップにコンプレッションを使用し、スネアやキックにゲートをかけ、ボーカルにコンプレッションやリミッターを使用し、ドラムにコンプレッサーをかけることができます。

Dynamics は Mono または Stereo モードで動作します。

Operation

Dynamics を使用する場合は、Personal Mix Mode であることを確認してください。次に Select のエントリーで選択すると、各チャンネルで使用可能な Dynamics が表示されます。Dynamics は Monitor ボタンで出力にも使用できます。

ANUBIS MERGING+DYNAMICS FEATURES

- MERGING+DYNAMICS は 全ての Anubis で使用できます。
- MERGING+DYNAMICS は 44.1kHz から 352.8kHz (DXD)/ 384kHz までをサポートします。
- MERGING+DYNAMICS は 以下のインスタンスをサポートします。
 - 1FS (44.1/48kHz) で 64 x DYNAMICS instances
 - 2FS (88.2/96kHz) で 32 x DYNAMICS instances
 - 4FS (172.4/192kHz) で 16 x DYNAMICS instances
 - 8FS (DXD-352.8/384kHz) で 8 x DYNAMICS instances

Dynamics Modules

MERGING+DYNAMICS には、1 X ゲート、1 X コンプレッサー、1 X リミッターが含まれます



Gate

Gate は スレッシュホールド以下の信号を減衰させます。

Compressor

クラシックな太いコンプレッションをつくる純粋で透明なディスクリートコンプレッションにより、ミキシングだけでなく、マスタリングやポストプロダクションにも最適です。

Limiter

スレッシュホールド以上の信号を制限します。



Attack

Attack time は、Threshold レベルに達したときのプロセッサの応答速度を設定します。ドラムのようなトランジェントが豊富なプログラム素材の場合、オーバーシュートを最小限に抑えるために速い Attack time が必要です。他のプログラム素材の場合、Attack time が短すぎるとサウンドが鈍くなったり、歪みが発生する可能性があります。

Range: 0.1ms to 200ms

Release

Release Time は、Threshold を超えなくなった後に、ゲイン チェンジが 1 に戻る速度を設定します。ほとんどの場合、Release Time はプログラムに大きく依存します。

Range: 11ms to 2 sec

ON/OFF

モジュールのON/OFFです。Gate, Compressor, Limiter には各々にON/OFF設定があります。

Module Selector

モジュール名をタップして有効にすることで、操作したいモジュールを選択します。



上の図では、Compressor が選択されています。すべてのパラメータは選択したモジュールを反映しています。

Module Status

モジュール LED インジケータです。モジュールがアクティブかどうかを示します。下図の例では、Gate と Limiter が有効になっていますが、Compressor は有効になっていません。



Auto Gain

Automatic Gain は、より一貫した音量を実現するために、入力信号に基づいてゲイン レベルを調整します。

Reset Gain

output fader を長押しすると、0dB にリセットされます。

Peak Reset

Reset ボタンをタップすると、Dynamics メーターのすべてのピークをリセットします。



MERGING+REVERB



MERGING+REVERB は Venue Mission に装備されています。Reverb Strip チャンネル オプションを使用し、複数のチャンネルで使用できます。リバーブはステレオリバーブです。

Operation

Personal Mix モードになっていることを確認してください。

Settings > Monitor でリバーブを Enable にし、Settings > Source で Reverb Send source を作成してください。

その後、Mixer ページの Select メニューからリバーブにアクセスできます。これにより、各入力チャンネルで使用できるようになります。

Note: リバーブ信号をミキサーに戻すには、*Reverb return* 入力レベルを上げてください。フェーダーは、*Dry/Wet* グローバル パラメーターとして機能します。

REVERB PARAMETERS





REVERB RETURN INPUT

Reverb return input チャンネルは、メイン Mixer ページにあるものと同じです。リバーブ信号がミキサーに戻るようにレベルを上げます。フェーダーは Dry/Wet パラメータとして機能します。

REVERB SIZE (Small to Large)

仮想部屋のサイズと形状を調整し、小さな部屋から大きな部屋、ホール、大聖堂まで反射のパターンと間隔を変更します。

小さな部屋用の短く明るいリバーブ、アップフロントの雰囲気、またはミックスを深い空間に配置する長くて暗いリバーブをダイヤルで調整できます。

Reverb size パラメータを他のパラメータと併用して、部屋のサウンドを変更することができます。

LOW CUT

リバーブに入る低周波数を低減させます。これにより、ドラムのキックやベースなどの低周波信号から焦点が離れてしまう、濁った不明瞭なサウンドを防ぐことができます。

Low Cut Range: 0Hz - 20kHz

HIGH CUT (High Frequency Damping)

リバーブに入る高周波を低減させます。リバーブが金属的に聞こえる場合は、4~ 8kHz から高音を下げてください。

High Cut Range: 10Hz - 20kHz

PRE-DELAY

演奏を聴いているとき、最初に直接音が届き、次に部屋の反射からの残響が聞こえます。Pre-Delay は、直接音が到着してから反射音が到着するまでの時間です。

Pre-Delay Range: 0- 300ms

DECAY

リバーブの減衰時間です。部屋の音圧レベル (SPL) が低下するまでにかかる時間です。

強い初期反射と素早い減衰を備えたリバーブ設定は、モノラルソースからステレオ効果を作成するのに最適な方法です。部屋が大きいほどリバーブテールは長くなり、部屋が小さいほどリバーブテールは短くなります。

Decay Range: 0 -100%

DIFFUSION

リバーブテールの反射を密度でコントロールします。拡散が高いほど、タイミング、レベル、パン位置の点で反射の密度がより規則的になります。一般に、高い設定はより自然な響きのリバーブが得られ、設定を低くするとよりエアリー感のあるエフェクトが得られます。

Diffusion Range: 0 -100%

DRY/WET

Dry と Wet のレベルは左側のチャンネルストリップから調整する必要があります。

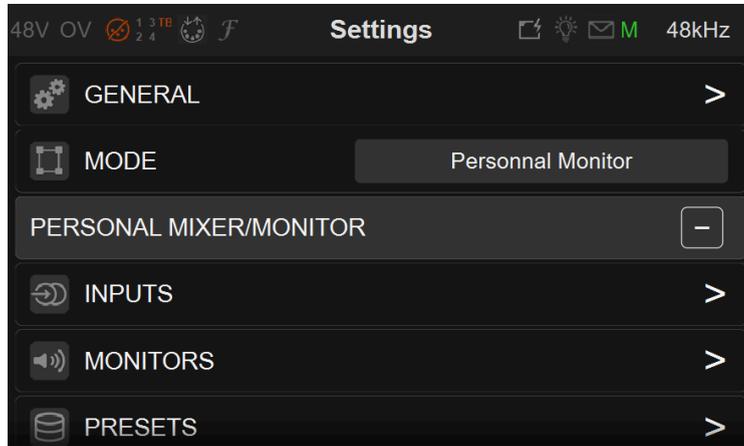
Dry/Wet コントロールを使用すると、未処理(ドライ)トラックとリバーブ適用後のトラックのバランスを変更できます。



SETTINGS CATEGORIES DESCRIPTION



GENERAL SETTINGS



Sample Rate



Sampling Rate

ドロップダウンメニューから サンプリング周波数を選択します。

Anubis Pro: 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz

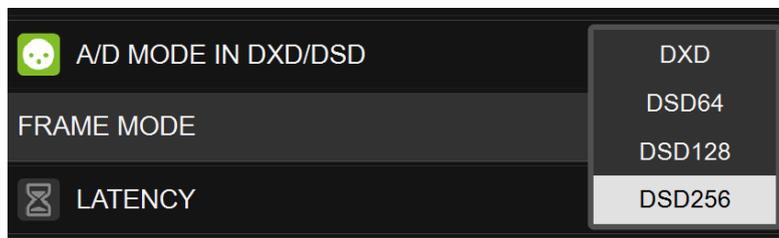
Anubis Premium: 44.1kHz, 48kHz, 88.2kHz, 96kHz, 176.4kHz, 192kHz, 352.8kHz (DXD), 384kHz, DSD64, DSD128, DSD256.

Warning: Venue Mission Mixer は DSD をサポートしていませんが、DSDをダイレクトにDAWで録音することは可能です。その場合、Anubisでモニタリングすることはできません。



A/D Mode in DXD/DSD:

この設定は、DXD - DSD64 - DSD128 - DSD256 のいずれかに設定できる AD (PreAmp) にのみ適用されます。



Anubis は DXD/DSD モードに設定することができます。このモードでは、Anubis は任意のオーディオ データ形式のストリームを受信でき、選択した A/D またはストリーム オーディオ データ形式に応じて DXD または DSD64、DSD128 または DSD256 ストリームを生成できます。

A/D モードをプロジェクトに選択したものと同一サンプリング レートに設定することをお勧めします。ただし、Pyramix などの DAW は、A/D モードを DSD フォーマットに設定して DXD プロジェクトに録音できますが、こ





の機能は MassCore ユーザーのみが利用でき (Native/ASIO ではサポートされていません)、チャンネル数が多いとかなりのリソースを必要とする可能性があります。

Warning: Music Mission Mixer は DSD をサポートしていませんが、DXD/352.8kHz および 384kHz をサポートしています。



Auto

Auto Sampling Rate モードを有効にすると、Anubis は ASIO, Virtual Audio Device (VAD), MassCore または PTP クロックを持った別のインターフェイス または RAVENNA/AES67 ソースによって指定されたサンプリング レートに自動的に従うようになります。デフォルトで Enable になっています。

例 1: 外部プレーヤー (DAW など) を使用している場合は、Auto モードを Enable にして、Anubis がプロジェクトの設定に従ってサンプリング レートを自動的に変更することができます。

例 2: Auto 設定は、RAVENNA ASIO/Virtual Audio Device (VAD) の設定に従うネットワーク構成でも役立ちます。この場合、Anubis はサンプリング レートを自動的に調整します。

Note: 上記の両方の例は、少なくとも 1 つの RAVENNA ASIO または Virtual Audio Device (以前の Core Audio Driver) のストリームが Anubis ソースに接続されている場合に有効です。

Note: サンプリング レートゾーンで ANEMAN を使用している場合、クラウン上のデバイスがマスター サンプリング レートを決定します。このような場合、Anubis 自動サンプリング レートモードを Disable に設定することを推奨します。クラウン以外のデバイスが特定の瞬間にサンプリング レートの競合を起こした場合、サンプリング レートがちらつく可能性を回避できます。

Frame Mode



Latency

利用可能なモード: AES67 (6)、AES67 (12)、Ultra (16)、Extra (32)、AES67 (48)*、Low (64)。

選択したモードにより、AES67/RAVENNA ネットワーク上のデバイスの遅延が決まります。複数の AES67/RAVENNA デバイス (Anubis など) がネットワーク上で接続されている場合、グローバルに達成できる最小の遅延に自らを調整するように構成する必要があります。

* 工場出荷時のデフォルトモード

Clock

PTP クロックについて: Precision Time Protocol (PTP) は、コンピュータ ネットワーク全体でクロックを同期するために使用されるプロトコルです。IEEE 1588 または IEC 61588 としても知られるこれは、分散システムのノード内のリアルタイム クロックを同期するために設計されたプロトコルです。RAVENNA は、この IEEE 標準化プロトコルの V2 に基づいており、それを使用しています。PTP クロックでは、ナノ秒までの時間分解能が可能です。



PTP Master

ネットワーク環境で複数の AoIP デバイスが使用されている場合、この設定を Enable にすると、ベスト マスター クロック アルゴリズム (BMCA) を使用して、Anubis が PTP マスターの優先順位として選出されようとしています。





注: マージング製デバイス以外は、Anubis を PTP として考慮しない可能性があります。



PTP Status

Anubisの PTP ステータスに関する情報。Slave または Master のインジケータと Unlock, Locking, Lock のステータス。



ASIO Clock

Auto: Anubis が ASIO クロックを生成し、Anubis が PTP Master になります。

On: Anubis は Master でない場合でも ASIO クロックを生成します。

Off: ASIO クロックは生成しません。

Note: Anubis が PTP マスターにならないことが確実な場合、または Unicast (ポイントツーポイント) ワークフロー用に構成されている場合にのみ、Off に設定してください。

Interface Controls



Brightness Display

TFTディスプレイの輝度調整です。ロータリーエンコーダーを使って調整します。



Buttons Intensity

ボタンの輝度調整です。ロータリーエンコーダーを使って調整します。

Fan



Fan

冷却モード: Low, Mid, High のいずれかに設定が可能です。内部で測定された温度を基準として、ファンが動作を開始するしきい値に影響します。優先設定はありませんが、適切な冷却動作と保護のために、ノイズレベルが懸念されない限り、設定を Mid のままにすることをお勧めします。

- Low: ファンは 50°C 以上で開始します
- Mid: ファンは 45°C 以上で開始します
- High: ファンは 40°C 以上で開始します

これらのしきい値を超えると、ファンは常に最低速度 (最小ノイズ) で開始し、測定された温度に比例して徐々に増加します。

Note: Anubis は、温度が 66°C に達すると、予防措置として自動的にシャットダウンします。





Stop on Talk

Stop on Talk オプションを Enable にすると、Anubis の Talkback ボタンを押すとファンが停止します。放すと、必要に応じてファンが再び始動します (測定温度に応じて)。

Network Settings

< Settings General [Icons] M DXD/DSD

NETWORK [Close]

OBTAIN AN IP ADDRESS AUTO

IP ADDRESS 169 254 228 14

SUBNET MASK 255 255 0 0

DEFAULT GATEWAY 0 0 0 0

APPLY AND REBOOT

ST2022-7 mode

Anubis SPS model では ST2022-7 が設定できます。
詳細は Anubis User Manual の ST2022-7 の章をご覧ください。

Obtain an IP Address

Manual: 変更したい IP ADDRESS のフィールドをタップして ロータリーエンコーダーで変更してください。
Auto: ZeroConf / Auto-IP メカニズムにより IP を自動取得します (DHCPサーバーが存在しない場合、アドレスは 169.254.x.x となります)。
Note: デフォルトでは “Auto” に設定されています。
詳細は *Anubis User Manual* をご覧ください。

IP address

ボックスを選択して、ロータリーエンコーダーで IP アドレスを設定してください。これは OBTAIN AN IP ADDRESS が Manual の場合にのみ使用できます。
デフォルト: 169.254.x.x

Subnet mask

サブネット マスクの設定です。これは OBTAIN AN IP ADDRESS が Manual の場合にのみ使用できます。
デフォルト: 169.254.x.x

Default gateway

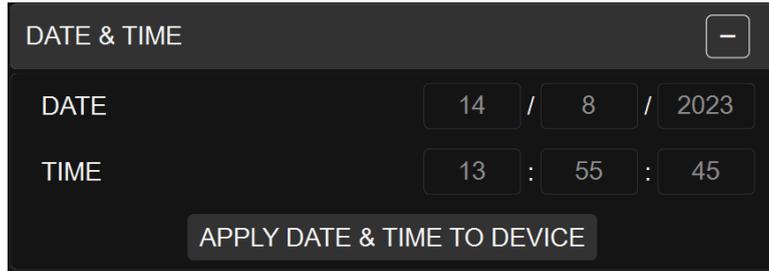
LANからインターネットなどの外部ネットワークに接続する際に、通信の出入口の役割を果たすアドレス。
デフォルト: 0.0.0.0

Apply & Reboot

このセクションに変更を加えたら、このボタンを押して設定を Anubis を再起動する必要があります。

Date & Time

Anubis には、外部電源がない場合でもバッテリー駆動のリアルタイム クロックが搭載されています。



TimeZone

ドロップダウンメニューでタイムゾーンを選択してください。

Date

日付を設定するには、各フィールド(日:月:年)を1つずつタップし、ロータリーノブで設定します。

Time

各フィールド(時:分:秒)を1つずつタップし、ロータリーノブで24時間形式で設定します。

Note: Settings を Exit するか、Settings > Exit > Save で現在の設定を保存すると変更が保存されます。

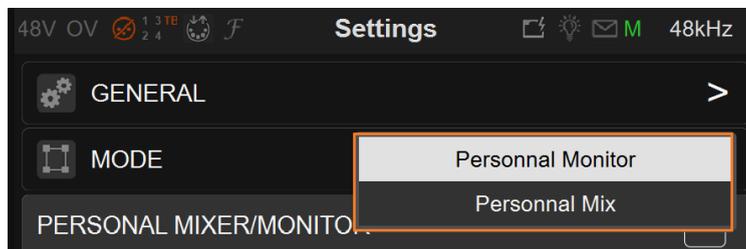


MODE

次の2つのオペレーションモードがあります。

Personal Monitor

Personal Mix

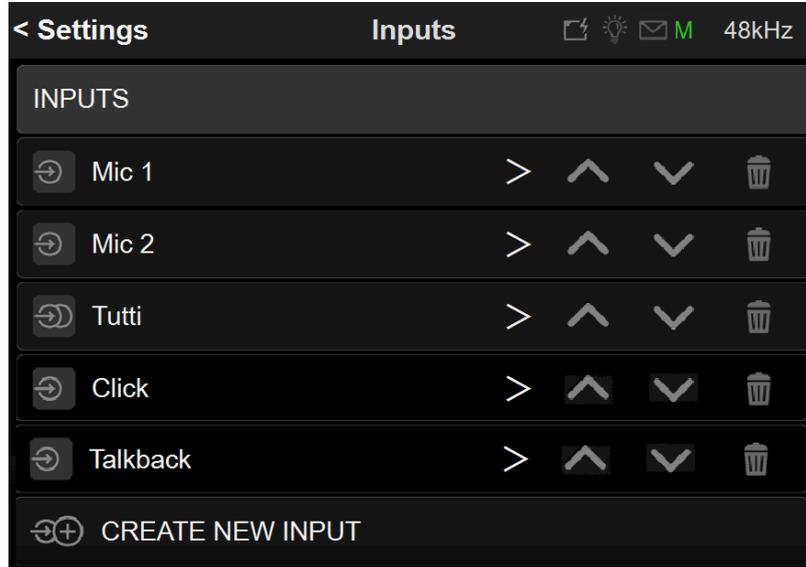




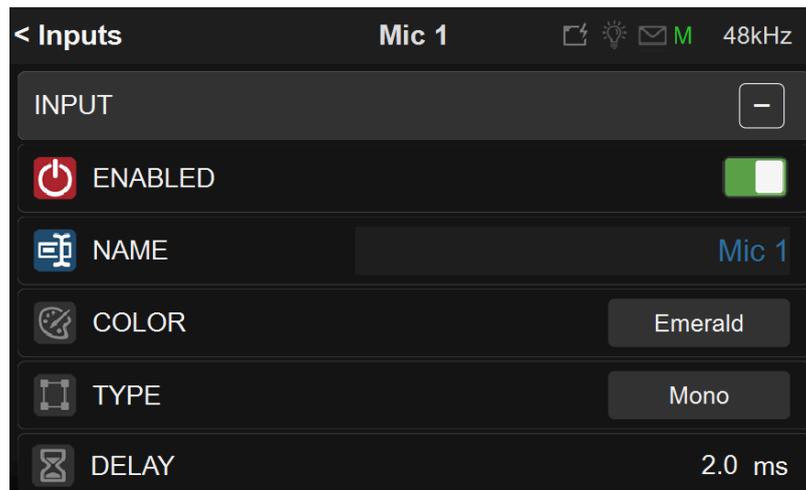
PERSONAL MIXER / MONITOR

INPUT Settings

Input settings で、input source を設定します。



設定したい Source を選択します。



Enable

どの入力を有効にするかを設定します。入力はいくつでも作成できますが、有効にできるのは合計 16 個だけです。

Name

青色のテキストエントリをタップして仮想キーボードを開き、Source に名前を付けます。

Color

Source に色を割り当てると、Input チャンネルのソースに表示されます。

Type

Source のチャンネル タイプを モノラル または ステレオ に設定します。タップすると、利用可能なすべてのエントリが表示されます。





Delay

ソース入力に 0 ~ 20ms の遅延を設定することができます。

Channels



Number

Source のチャンネル番号です。

Patch

Input Source のルーティングを行います。ダイアログのパッチの番号付けは、ローカルの ハードウェア入力から始まり、次に別の Anubis、Horus または Hapi、ASIO、MAD、VAD、または MassCore ストリームからのペアのデバイス ストリームなどの外部ソース ストリームが続きます。スクロールするとリスト全体を表示します。

Note: パッチは、Advanced Pages または ANEMAN を使用して実行できます。

Dyn

Dynamics は input source に入れることができます (Effect の章参照)。

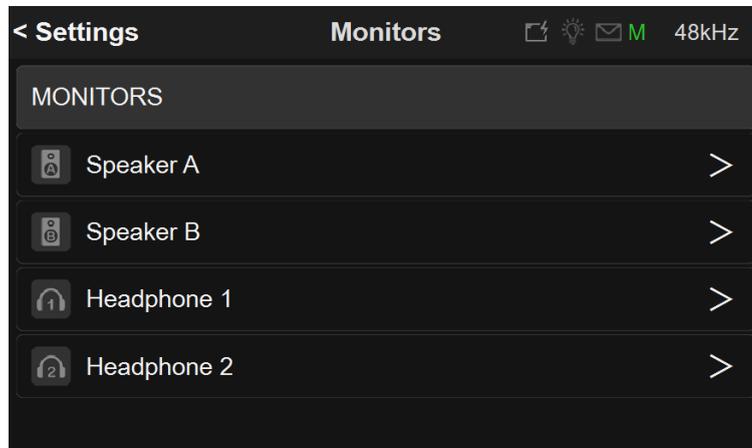
EQ

パラメトリックEQ は input source に入れることができます (Effect の章参照)。



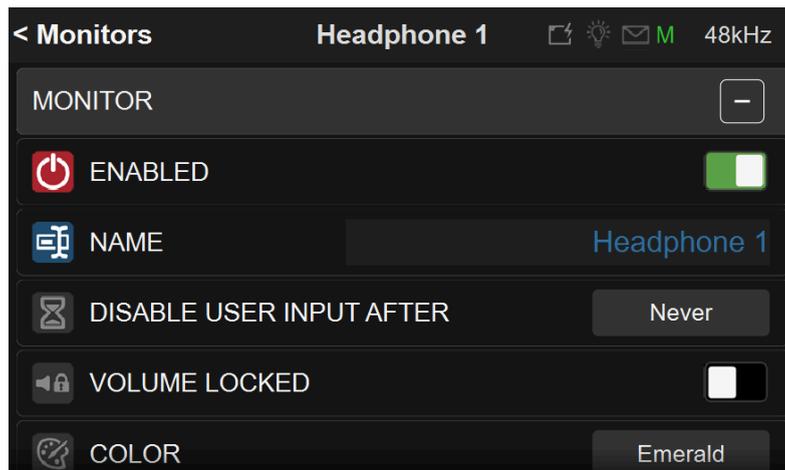
MONITORS Settings

Monitor の設定は Monitor Settings で行います。



デフォルトでは 4 つのモニターが作成されており、Anubis の Speaker A、Speaker B、Headphone 1、Headphone 2 の物理ボタンに割り当てられています。

Monitor を選択してパラメーターを調整します。



Enabled

Enable にすると Monitor は表示され、演奏者が操作できるようになります。

Name

青色のテキストエントリをタップして仮想キーボードを開き、Monitor に名前を付けます。

Color

Monitor に色を付けます。この色が Monitor に表示されます。

Disable User Input

タッチスクリーン操作のタイムアウトの長さを決定します。この設定は、複数の人が同じ Anubis を使用する場合に便利です。これにより、先にモニター ボタンを選択することで、適切なモニター ミックスを微調整することができます。ドロップダウン メニューで値を選択してください。



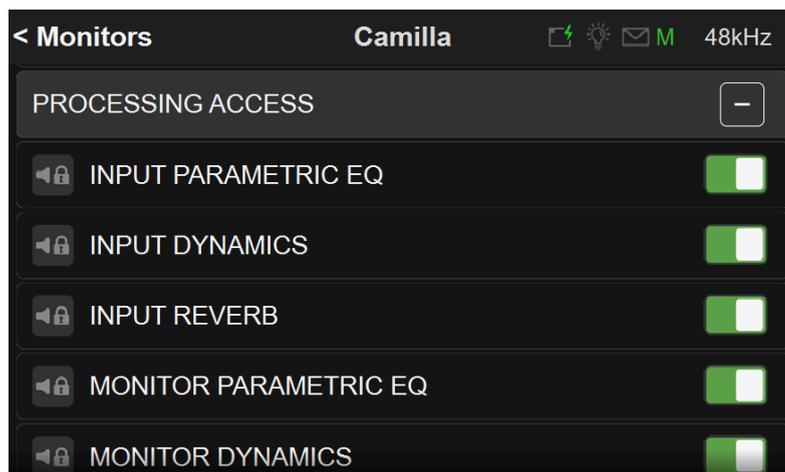


Volume Locked

特定の Monitor セットのボリューム コントロールをロックします。この音量は演奏者が調整できなくなり、固定されます。

Color

パフォーマーの Mixer と Monitor のコントロールにカスタマイズしたカラーコードを与えます。



Processing Access

パフォーマー Monitor セットの一部のコントロールを表示または非表示にするオプションの設定です。Disable にセットしたオプションは使用できません。

Input Parametic EQ

選択した Input チャンネルに対して Anubis 4 x バンド パラメトリックEQ を Enable にし、オペレーターがミキサーの任意の input チャンネルで EQ を使用できるようにします。

Input Dynamics

選択した Input チャンネルに対して Anubis Dynamics を Enable にし、オペレーターがミキサーの任意の input チャンネルで Compression, Gate, Limiter を使用できるようにします。

Input Reverb

選択した Input チャンネルに対して Anubis Reverb を Enable にし、オペレーターがミキサーの任意の input チャンネルで Reverb を使用できるようにします。



Monitor Parametric EQ

選択した出力に Anubis 4 x バンド パラメトリックEQ を Enable にし、オペレーターが出力 Bus に EQ を使用できるようにします。

Monitor Dynamics

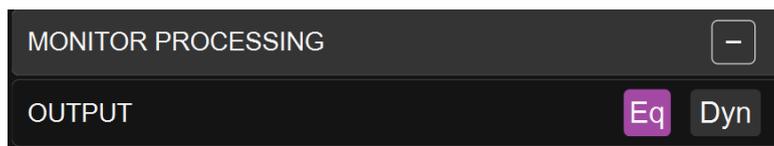
選択した出力に Anubis Dynamics を Enable にし、オペレーターが出力 Bus で Compression, Gate, Limiter を使用できるようにします。

	Show	Fader	Pan	Mute
MIC 1	Show	-7.0 dB	0	Mute
MIC 2	Show	-6.0 dB	0	Mute
TUTTI	Show	-8.0 dB	0	Mute
CLICK	Show	-10.0 dB	0	Mute
TALKBACK	Show	-8.0 dB	0	Mute

Personal Mix Inputs

このセクションには各 Input がリストされています。各モニターで次のアクションが利用可能です

- Show: Personal Mixer / Monitor ビューで input ストリップを表示/非表示にします。
- Fader: フェーダー値の表示と設定機能
- Pan: Pan の値と設定機能
- Mute: Mute のステータスと設定機能

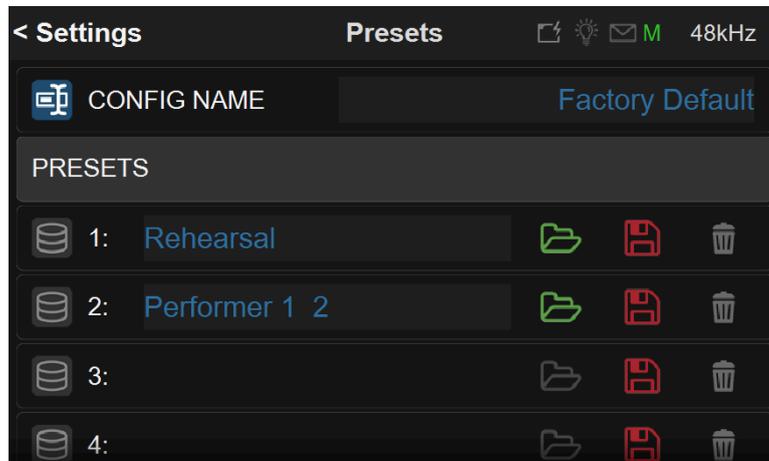


Monitor Processing

演奏者の Personal Mixer ビューで Processing メニューが利用できない場合、ここから Monitor Processing にアクセスできます。演奏者はそれらのエフェクトとそのパラメータにアクセスできませんが、エンジニアは何らかの修正を行うことができます。



PRESETS Settings



Preset Configuration Name

現在の設定に名前を付けてください。



Full configuration

設定の保存と呼び出しにより、さまざまなプロジェクトや設定を瞬時に切り替えることができます。Anubis の工場出荷時は、Preset は空で 灰色のフォルダーが入っています。



Load

異なる Anubis 構成の 18* Preset バンクをロードできます(一度に 1 つずつ)。



Save

18* Preset バンクに 異なる設定を保存できます。

* 18 Preset は Anubis Firmware 1.1.11 から利用できます。



Empty

ゴミ箱を押して、確認後に Preset を消します。

Preset の Save または Load 時に確認プロンプト メッセージ ボックスが表示されます。Preset の Load 中は Mute ボタンが点滅し、すべてのモニターが短期間ミュートされます。

Rename

Anubis 仮想キーボードを使用して Preset を作成します(Firmware 1.1.18以降)。Preset 名のエントリをタップすると Anubis 仮想キーボードが開きます。詳細については、仮想キーボードを参照してください。

Note: Web アクセスを利用することで 外部ディスクを利用し、無制限の数のプリセットを保存することができます。

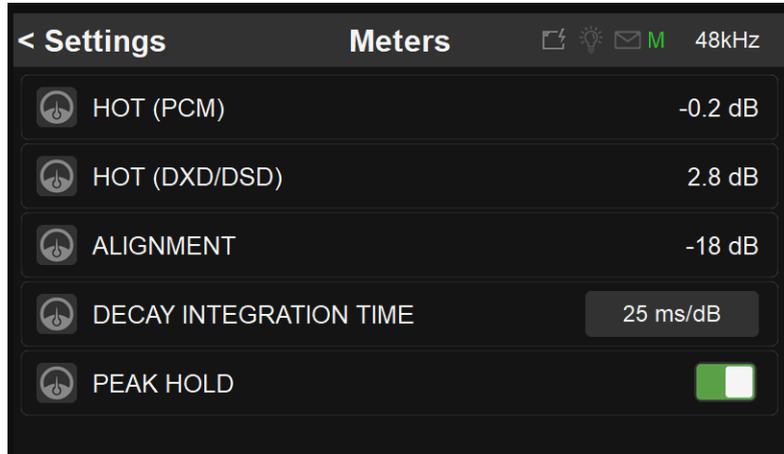




Warning: Reboot to Factory を行うと、Anubis が工場出荷時の設定に戻り再起動されます。そのため、その時点の設定は失われますが、保存されたすべての Preset は保持され、再 Load できます。

Meters Settings

PreAmp のメーターのレンジの色を変更します。



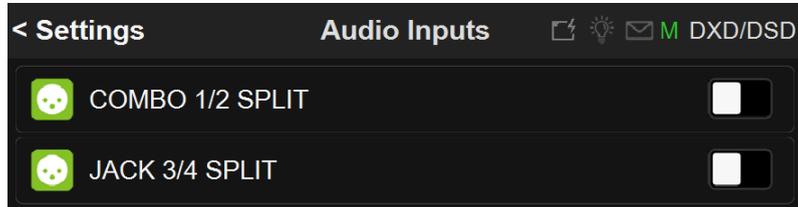
Hot	メーターが赤色になるレベルを設定します。0dB に設定するとクリッピングを意味します。 範囲 -2dBFS ~ 0dBFS (PCM) -2dB ~ 6dB SACD (DXD/DSD)。Reminder: DSD ユーザーは、DSD の +6dB ヘッドルームがあります。歪みはわずかに始まり +3.1dB から徐々に増加し、+6dB SACD に達するとクリッピングします。
Alignment	アライメントの範囲を設定します(黄色の LED)。範囲 -24dBFS ~ 0dB
Decay	Decay 時間は、レベルが最新のピークを下回った後に、レベルメーターの表示が減衰する速度を設定します。
Peak Hold	ON の場合、赤色の Peak Hold Overload が表示されたままになります。





I/O SETTINGS

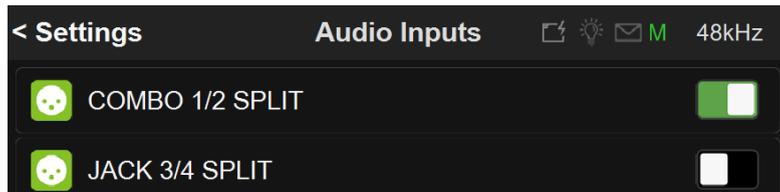
AUDIO INPUTS



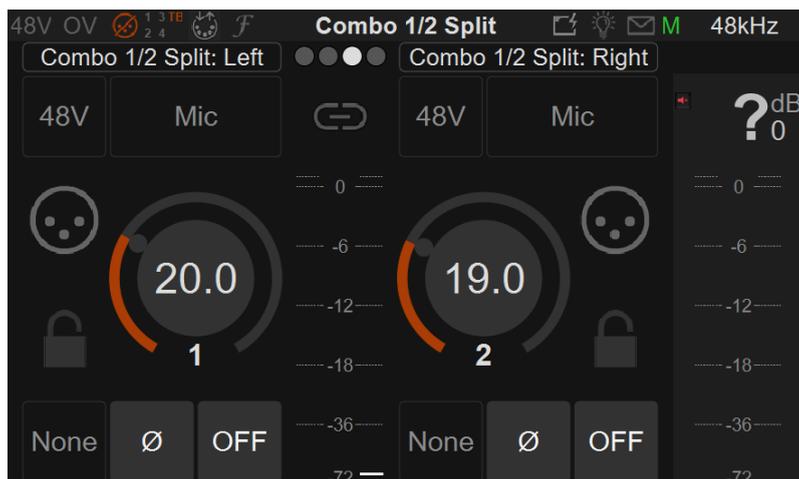
Anubis AD フロントエンドトポロジは、Split 機能を持っています。各入力チャンネルには、異なる経路に送るための個別の Split Gain コントロールがあります。

使用例:

- AD を録音デバイスに使用し、Split チャンネルを FOH に使用できます。
- FOHとモニタリングマイクのゲインを競合することなく独立して制御
- Split チャンネルを使用すると、別のモニタリングセット (ヘッドフォンなど) にルーティングされる同じチャンネルをモニタリングしながら、FOH への入力信号をカットすることができます。信号のチェックやケーブルの交換、楽器の FX の検索など、これらすべてを FOH フィードをミュートしながら行うことができます。
- 異なる入力ゲインレベルで録音できる (バックアップまたはピークセーフ録音用)。

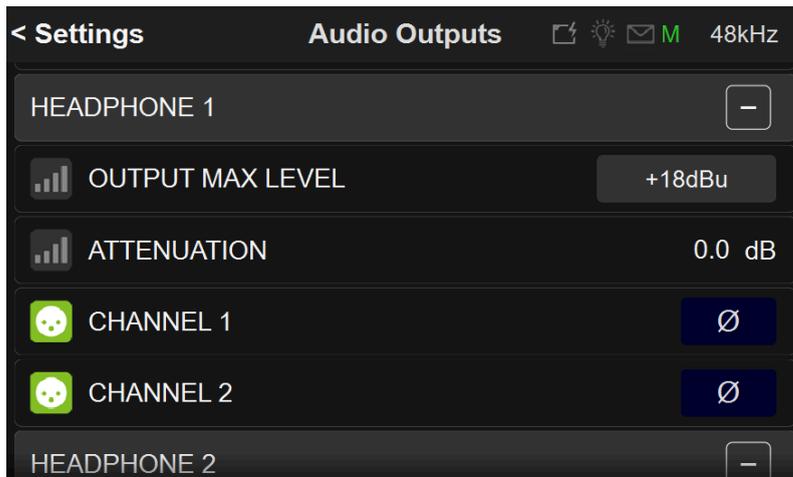


Enable にすると、Anubis プリアンプ ページ内に 2 番目のプリアンプ ペアが表示されます。ゲイン、極性、ローカットパラメータを別々に制御できます。





AUDIO OUTPUTS

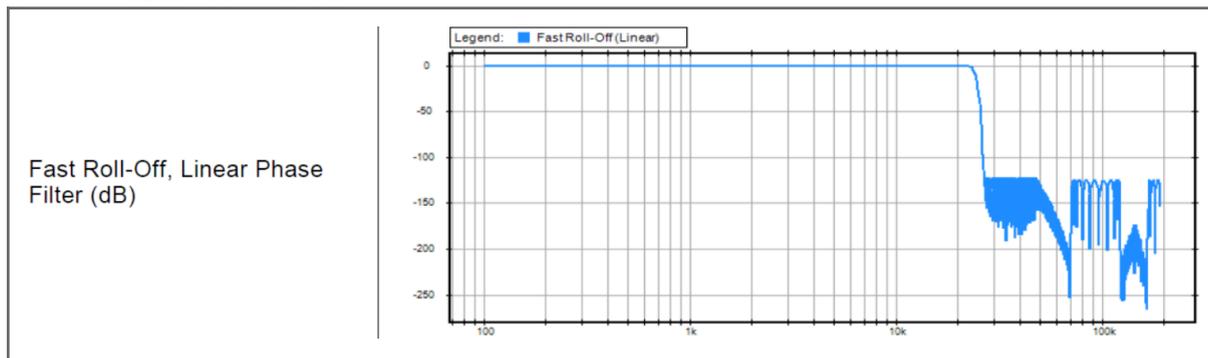


44

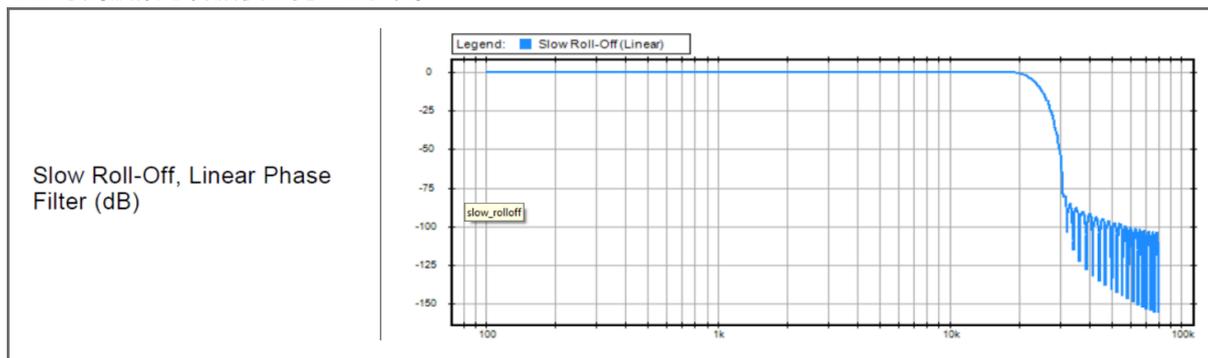
Global Outputs Setting

Roll Off Filter:

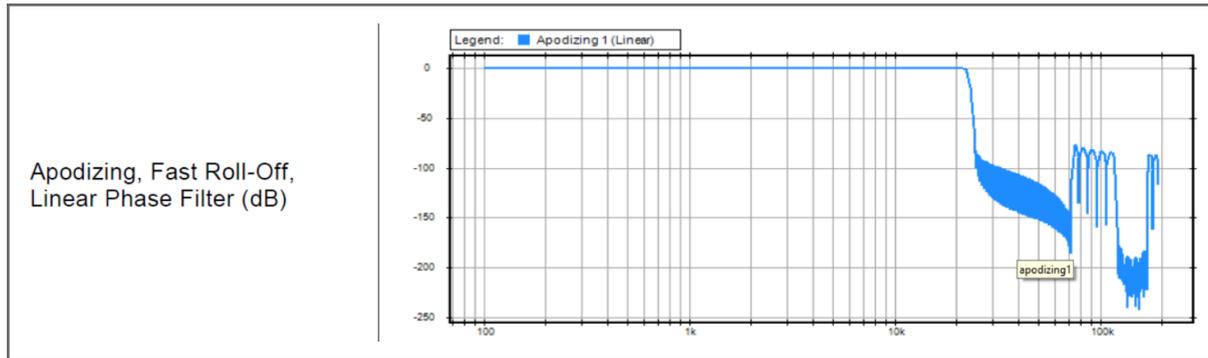
Sharp: $0.484 \times FS$ (23.2 kHz @48k) で -3 dB となるフラットな周波数応答を提供します。このモードでは 35 サンプルの遅延が発生します。



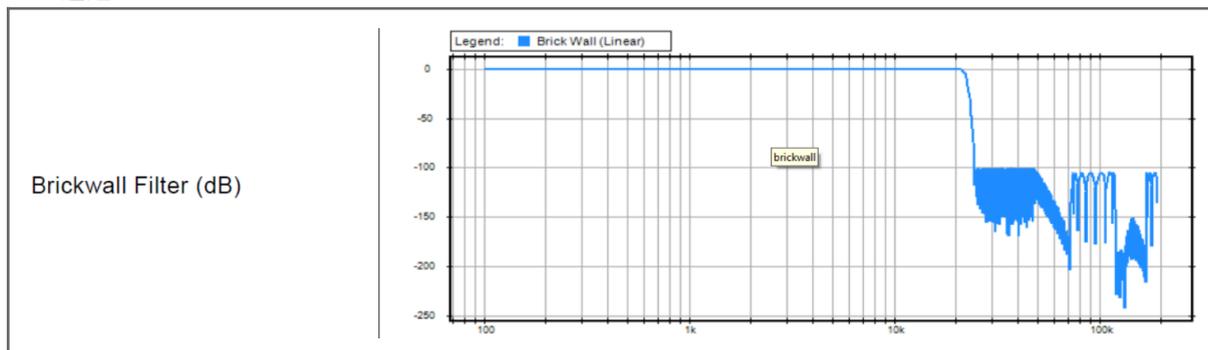
Slow (Default): 9 サンプルという最も低い遅延となりますが、 $0.45 \times FS$ (21.6 kHz @48k) で -3dB となる穏やかな周波数応答減衰が発生します。



Apodizing: 高速ロールオフフィルター、リニアフェーズフィルター。35 サンプルの遅延



Brickwall: ナイキストで -100dB 以上のリジェクションを保証します (0.50 x FS、24 kHz @48k)。35 サンプルの遅延



XLR 1/2: Anubis背面にあるXLR1と2のライン出力

Max Output Level: +18dBu または +24dBu

Attenuation*: +0dBu または -36dBu

Channel 1: ポラリティ

Channel 2: ポラリティ



Warning: 最大出力レベルの制限については、バランスライン出力をアンバランス入力に接続する方法のセクションを参照してください。

JACK 3/4: Anubis 背面にあるTRSジャック。XLR 1-2 と同様のパラメーター

HEADPHONE 1: Anubis 前面左にある Headphone set 1

Max Output Level: +9dBu または +18dBu

Attenuation*: +0dBu または -36dBu

Channel 1: ポラリティ

Channel 2: ポラリティ

HEADPHONE 2: Anubis 前面右にある Headphone set 2, Headphone 1 と同じパラメーター

Anubis D/A コンバーターは、ハイ または ロー インピーダンスのヘッドフォンを歪みのない高レベルで駆動できるように設計されています。使用しているヘッドフォンのインピーダンスに注意し、それに応じて最大出力レベルを設定してください。



Warning: インピーダンスが 200Ω未満のヘッドフォンで +18dBu の出力レベルを選択することはお勧めできません。ヘッドフォンの出力レベルを +9dBu から +18dB に変更するたびに、警告メッセージが表示されます。





Are you sure you want to select +18dBu ?

Do NOT select +18dBu for Headphones with impedance < 200 Ohms.

Yes

No



Warning: ヘッドフォンの出力レベルを上げすぎると、音量が非常に大きくなり、永久的な聴覚障害を引き起こす可能性があります。+18dBu設定を使用する場合は耳に注意してください。

* Firmware 1.0.16 以降 Settings > Audio Output ページには、チャンネルごとの出力トリムがなくなりました。これは出力ペアの Attenuation に置き換えられました。今後、Trim/channel は Monitor で行ってください。





ACCESS CONTROL Settings



Access Control

オペレータが完全なアクセス権を持つことを防ぐために、パラメータ (項目) のリストにセキュリティ アクセスをかけ、パスワード保護を使用してオペレータを制限できます。

Lock は Snapshot とは別であるため、常に完全な保護が保証されます。

Lock の手順

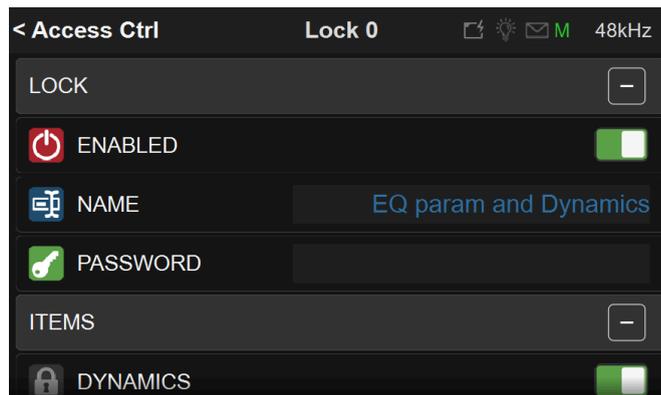
1. Access Control を開きます。



2. ADD NEW LOCK にタッチします。



3. 新しい Lock が加わります。



Lock

Name: 必要に応じてロックの名前を変更してください (明確にするために推奨)。

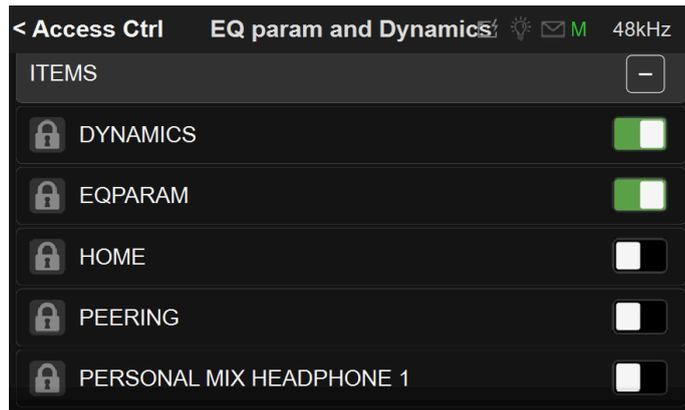
Password: パスワードを設定します。パスワードは Lock のエントリにリンクされます。

Items

選択して Lock エントリに適用できる項目のリスト。保護のためにリストされているアイテムのパラメータは、運用中の Mission によって異なり、Mission に依存します。

4. この例では、EQ および Dynamics の Lock を有効にします。





Note: リストされている最初の Settings は Main Settings (root) ページのことです。

5. 間違ったパスワードを入力した場合は これらの設定へのアクセスを拒否されます。パスワードを入力してください(この例では 1234)



6. これで Settings ページが開きます。

Lock の消去

Lock のエントリーはいつでも消去することができます。



適用されたロックを再初期化するには

1. Preset を保存してください。
2. MT Discovery か Driver から Anubis の Advanced ページを開いてください。
3. System タブを開いてください。
4. Reboot を選択してください。

Warning: これにより 適用された Lock の設定は全て初期化されます。

Note: Venue Mission における特定のアクセス制御動作について:

設定されているすべての Lock は、パーソナル モニター/ミキサーのロックを押すことで有効にできます。制限されたページにアクセスするために正しいパスワードを入力すると、関連するロックが自動的に解除されます。少なくとも 1 つのロックが無効になっている場合、パーソナル モニター/ミックス ページにあるロック アイコンが開きます。



INFO Settings



Anubis の名前、タイプ、ファームウェア バージョン、メンテナンス モード、シリアル番号に関するすべての情報と、温度、CPU、メモリ使用状況などの ステータスに関する情報を表示します。

< Settings	Info	🔌 🔦 📧 M 48kHz
DEVICE'S NAME	Anubis_650101	
TYPE	PREMIUM	
FIRMWARE VERSION	1.5.1b55804	
MAINTENANCE MODE VERSION	67	
SERIAL NUMBER	A650101	
BOARDS RUN	Main: 4 Front: 4 UI: 4	

Note: 新しいファームウェアが利用可能かどうかを定期的に確認してください。最新版での改善と修正を行うには、最新のファームウェアに更新することが重要です。ファームウェアのアップデート手順に従ってください。

DEBUG Settings



< Settings	Debug	🔌 🔦 📧 M 48kHz
TEMPERATURE/FAN	47 °C	0
🔍 LOOPBACK	<input type="checkbox"/>	
MIXER	-	
⚙️ MIXER	>	
DELAYS [SAMPLES]	-	
	0 1 2 3 4 5 6 7	

Loopback: ジェネレーター (1FS をサポート) および透明度チェックツール (384kHz までサポート) を備えた内部モジュール。開発中。

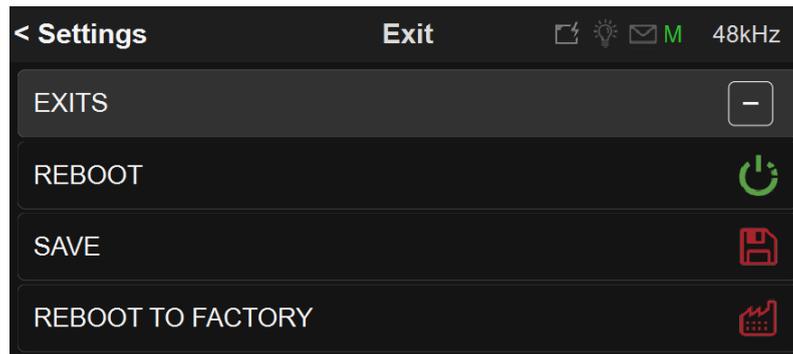


Loopback を有効にすると、Anubis I/O 内のループバック モジュールにアクセスできるようになります。

Note: Loopback は、現時点では *Merging Team* のデバッグ ツールとしてのみ利用可能です。



EXIT Settings



Reboot

Anubis を再起動させます。

Note: Anubisの電源をOFFにする場合は、背面のPOWERボタンを押して解除状態にしてください。

Save

現在の Anubis 設定を保存します。

Note: Anubis 全体の設定は 2 分ごとに保存されます。また Anubis の設定を終了するたびに保存されます。Anubis 設定で変更が適用され、設定中に Anubis の電源をオフにする予定がある場合は、最初に設定の保存を実行することをお勧めします。

Reboot to Factory

Anubis を工場出荷時の設定に再起動すると、デフォルトの工場出荷時の設定が呼び出されます。

Warning: すべての Source, Monitor, 設定が失われます。保存されたプリセットは消去されないため、最初に Anubis 設定を Preset に保存してバックアップすることをお勧めします。

 Anubis ホームボタンを押すと設定を終了し、ミキサービューに戻ります。



How to Open the Remote Web User Interface

PC を使用している場合：

Anubis を PC に正しく接続したら、ANEMAN を起動し、Anubis アイコンをダブルクリックします。これにより、デフォルトの Web ブラウザで Anubis Monitoring Web Access ページが開きます。

MT Discovery を使用している場合は、Anubis のエントリーをクリックするだけで、Web ユーザー インターフェイス ページを開くこともできます。



Mac を使用している場合：

Anubis を Mac に正しく接続したら、VAD パネルを開き、Anubis アイコンをクリックします。これにより、デフォルトのブラウザで Anubis Monitoring Web Access ページが開きます。

MT Discovery を使用している場合は、Anubis のエントリーをクリックするだけで、Web ユーザー インターフェイス ページを開くこともできます。



Web User Interface Page

Venue Mission Remote PreAmps access

← → ↻ 🏠 🔒 Not secure | 169.254.228.14/venue/index.html

MENU ANUBIS+VENUE

X PREAMPS

Combo 1/2: Left	Combo 1/2: Right	Jack 3/4: Left	Jack 3/4: Right	Combo 1/2 Split: Left	Combo 1/2 Split: Right	Jack 3/4 Split: Left	Jack 3/4 Split: Right	Built-in Mic
Mic	Mic	Line	Line	Mic	Mic	Line	Line	Mic
48V	48V	48V	48V	48V	48V	48V	48V	48V
None	None	None	None	None	None	None	None	None
Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø	Ø
LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF	LOWCUT OFF
🔒	🔒	🔒	🔒	🔒	🔒	🔒	🔒	🔒
GRP	GRP	GRP	GRP	GRP	GRP	GRP	GRP	GRP
Gain 0.0	Gain 0.0	Gain 0.0	Gain 0.0	Gain 20.0	Gain 19.0	Gain 0.0	Gain 0.0	Gain 10.0

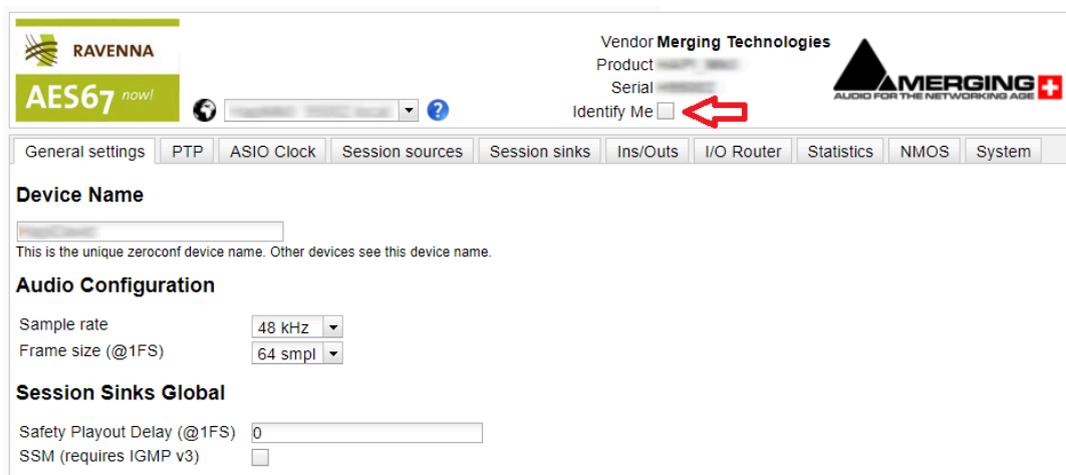


Identify Me - Device Location

Identify me 機能を使用すると デバイスを見つけることができます。ネットワーク上に複数のネットワーク インターフェイスがある場合、識別されたデバイスがこの機能により点滅するため特定できます。

手順

1. 識別したい Anubis の Advanced ページを開きます。これはドライバー（MAD または VAD）または MTDISCOVERY で Anubis をマウス右クリック から Advanced page を選択します。
2. Advanced ページが開いたら、ページの右上に Identify me があります。
3. Identify me ボックスにチェックを入れてください。



4. これにより、Anubis の Home ボタンが点滅し、TFT に Anubis の名前が表示されます。

